

☆ 世 界

綿 花 2015/16 年 綿花消費は低成長の見通し

ICAC(国際綿花諮問委員会)によると、2015/16 年の世界の綿花消費は低成長にとどまる見通しである。ICAC はそのほか、世界最大の綿花消費国である中国の綿紡績部門の成長低迷を指摘している。

中国では、綿花価格が上昇する一方でポリエステル価格が値下がりし、綿紡績部門の競争力が弱まっている。国際綿花価格(CotlookA)と中国のポリエステル価格を比較すると、2000 年代においては、時に綿花価格が下回ることもあったが基本的に同等であった。転換期となったのが2009/10 年で、この年度以来、綿花価格がポリエステル価格を実質的に上回る状態が続いている。中国政府が備蓄を実行していた期間中、国内の綿花価格は144 cents/lb 前後(中国コットンインデックス)であったが、政府が備蓄停止を発表すると急落した。2015 年 8 月には平均95cents/lb と、下降の一途をたどっており、国際綿花価格との差を縮めている。ただし、ポリエステル価格もまた下降しているため、綿花とポリエステルの価格差は維持されている。中国の綿紡績部門は、競争力に欠ける綿花価格に株式市場の混乱が重なり、成長が抑制されている。2015/16 年の中国の綿花消費は、約 770 万トに達する見込みだが、2000 年代中頃のピーク時の 1,000 万トをはるかに下回る。中国の綿紡績部門の競争力が衰えたことから、近年ミル消費はアジアを中心とした低賃金の国々にシフトしている。

2015/16 年の世界の綿花消費量は、競合する化学繊維の価格を綿花価格が上回る状態が続いていることから、低成長にとどまり2%増の2,500 万トとなる見通しで、世界的な景気後退直前の消費量を依然として下回る。中国に続く最大の綿花消費国であるインド、パキスタンにおける消費は、それぞれ3%増の560 万ト、260 万トとなる見通し。中国、インド、パキスタンの3 か国だけで世界の綿花消費の64%を占める。

2015/16 年の世界の綿花作付面積は、2014/15 年の著しい綿花安の影響を受けて7%減の3,100 万畝となる見通し。平均イールドは3%減の764kg/畝となり、生産量は10%減の2,370 万トの見通し。

2015/16 年の世界の期末在庫は、消費低迷によって大きな影響は受けない見込みで、6%減の2,040 万トとなる見通し。

2015/16 年の世界の綿花輸入量は、依然として安定し760 万トの見通し。中国の輸入は12%減の160 万トと予想され、ピーク時で530 万トだった2011/12 年以降5 年度連続で減少する見通し。中国以外の地域

では、中国に続く三大輸入国における増加が貢献し3%増の600万トンの見通し。米国の輸出は生産量減に大きく起因し9%減少し、前年度51%減少したインドの輸出は21%回復し120万トンとなる見通し。

世界の綿花需給見通し

(100万トン)

	2013/14	2014/15	2015/16
生産	26.29	26.19	23.70
消費	23.61	24.47	25.03
輸入	8.65	7.63	7.62
輸出	9.00	7.90	7.62
期末在庫	20.30	21.75	20.42
価格*	91	71	76

*Cotlook A インデックス(セント/ポンド)価格は、中国を除く世界の在庫率の見通し、中国の綿花輸入見通しをもとに推計した。